

**〈授業改善推進プラン 令和4年度第6学年 国語科〉**

**1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題**

- ・令和4年度村学力調査から、全国平均を下回る結果となった。説明文の出題のねらい「情報と情報との関係について理解し、文章の情報を理解する」では、全国平均60.2%より約12%低い48%となった。また、「文章を書く」の内容では、出題4問すべてにおいて全国平均を大きく下回り「自分の意見とその理由を明確に書いている」では、目標数値40%に対して16%となっていた。「文章の情報を理解する」「文章を書く」ことに課題が見られる。

**2. 課題改善に向けた取組状況**

(1) 令和2年度授業改善推進プラン記載内容

- ・難意語等を国語辞典や漢和辞典を使って調べることで、言葉を正しく理解する。
- ・漢字バッチリノートを活用し、家庭学習で漢字を練習する。
- ・漢字小テストを実施し、100点合格を目指す。

(2) 今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等

- ・既習学習の内容を復習する時間を、スキルタイムに確保し、前学年の内容も振り返り学習を進める。
- ・グラフなどの資料を読み取る力を身に付けるために、資料からどんな情報を得られるか全体で確認、共有し、自分の考えをまとめるようにする。
- ・自分の意見をもたせるために、朝の会でニュースから思った自分の意見を発表する。

**3. 課題の改善に向けた方策と検証方法**

＜方策＞

- ①グラフなどの資料を読み取る力を身に付けるために、資料からどんな情報を得られるか全体で確認する。
- ②自分の意見をもたせるために、朝の会でニュースから思った自分の意見を発表する。
- ③既習学習の内容を復習する時間を、スキルタイムに確保する。

＜検証方法＞

- ①朝の会で発表するニュースと自分の意見を要約させたノートから検証する。
- ②物語文や説明文で、毎時間意見をノートに書く時間を設定する。
- ③ミライシート等の進捗や定着度を確認する。

**4. 検証結果(成果と課題)**

＜成果＞

積極的に朝のニュースを観るようになった。朝の会でアウトプットすることで、自分の意見・立場を明確にすることができた。

＜課題＞

自分の言葉で要約する力を身に付ける必要がある。

**5. 令和5年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項**

- ・ニュースや新聞の原稿をそのままにして発表するのではなく「要約する」力を身に付ける。

**6. 令和5年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿**

- ・ニュースや新聞の原稿をそのままにして発表するのではなく、要約して発表できる児童。

## 〈授業改善推進プラン 令和4年度第6学年 社会科〉

### 1. 『わかる』から『できる』を体感する授業を実現する上で解決すべき課題

- ・令和4年度学力調査では、各領域で全国平均を下回っていた。社会における学び方、問題解決的な学習を理解する必要がある。また、「社会科」に対して苦手意識がある児童が45%ほどいる。社会科に対しての苦手意識をなくし、「主体的に学習に取り組む態度」を育てる授業展開を考えていかなければならない。

### 2. 課題改善に向けた取組状況

#### (1) 令和2年度授業改善推進プラン記載内容

- ・ICTなどの機器を使い、歴史に関する話や実際の映像を見せることで、今の生活と深いかかわりがあることに気付かせる。
- ・歴史人物について調べ、レポートを作成する。
- ・ゲストティーチャーによる講話、実物に触れる機会を増やす。

#### (2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業を実現するための工夫等

- ・単元の学習計画の見通しをもたせ、学び方を理解させるために、効果的にICT機器を利活用した資料作成を行い、導入時で提示する。
- ・歴史領域において、年号と事象を覚えさせるのではなく、歴史的背景を理解させる学習内容とする。

### 3. 課題の改善に向けた方策と検証方法

#### <方策>

- ①ICT機器を使い、資料を作成し導入で活用する。
- ②歴史領域において、年号と事象を覚えさせるのではなく、歴史的背景を理解させる学習内容とする。

#### <検証方法>

- ①学習計画が、問題解決的な学習になっているかを確認する。
- ②ノートの記述を確認する。

### 4. 検証結果(成果と課題)

#### <成果>

歴史新聞を作成するなど、事象と年号を結び付けることができた。また事象が起こった時代の背景を理解していた。

#### <課題>

歴史分野と政治分野をつなげてから指導しないと、天皇中央集権と民主主義が繋がらない。

### 5. 令和5年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項

- ・短期記憶になってしまっている児童に対して、繰り返し学習していく大切さを指導する。
- ・ノートを書く際に、板書をそのまま写すだけでなくメモをとる習慣を付けさせる。

### 6. 令和5年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿

政治に興味をもち、法律や選挙など現在の時事について興味をもつ児童。

**〈授業改善推進プラン 令和4年度第6学年 算数科〉**

<p><b>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和4年度学力調査では、各領域で全国平均を下回っていた。特に「整数の仲間分け」「分数の計算」「面積」「比例・単分量あたりの大きさ」「割合」「グラフ」において課題が見られた。</li> <li>・分数の計算を正確に解く力を身に付けさせる必要がある。</li> <li>・数の概念や図形をより具体的にイメージすることが苦手である。</li> <li>・演習の時間を確保し、基礎的な問題が正確に解ける力を身に付けさせる必要がある。</li> </ul>	
<p><b>2. 課題改善に向けた取組状況</b></p> <p>(1) 令和2年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・公式の構成や導き出し方の学習を通して、公式の有用性を理解し、活用することができるようにする。</li> <li>・多面的に捉え検討してよりよい方法を粘り強く考えさせたり、学習したことを生活や学習にどのように活用できるか考えさせたりすることで、理解の定着を図る。</li> </ul> <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業のねらいにつながる既習内容を確認し、児童が主体的に自力解決できるようにする。</li> <li>・数の概念や図形をより具体的にイメージしやすいよう、既習内容や問題を可視化する。具体物や半具体物の操作を通して、図形の構成や計算の意義を感覚的に捉えられるようにする。</li> </ul>	
<p><b>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</b></p> <p>＜方策＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①基礎的な内容の反復学習を行い、定着を図る。また、達成度を記録し、把握しておく。</li> <li>②自力解決とペア学習の時間を多く設け、半具体物や図、言葉を使って解いたり、説明したりする。</li> </ul>	<p>＜検証方法＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①毎時間、授業の始めに、既習内容の確認を行い、基礎的な力の定着を図る。ペアで既習内容の問題を解き、ペアで正答を確認する。</li> <li>②ペア学習を計画的に取り入れ、自力解決やペア学習でできるようになったことをノートに振り返り、「わかる」「できる」を体感できるようにする。</li> </ul>
<p><b>4. 検証結果(成果と課題)</b></p> <p>＜成果＞・反復学習を行うことで、基礎的な内容の定着を図ることができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ペア学習を多く取り入れることで、理解を深めることができた。</li> </ul> <p>＜課題＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・考えを説明することに苦手意識をもつ児童もいる。</li> </ul>	<p><b>5. 令和5年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ペア学習を実施する時には、事前にねらいを児童に伝える。</li> <li>・どの時間においても「わかる」「できる」姿を計画する。</li> </ul>
<p><b>6. 令和5年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・粘り強く問題を解くことができる児童。</li> <li>・主体的に楽しみながら学ぶ児童。</li> </ul>	

## 〈授業改善推進プラン 令和4年度第6学年 理科〉

### 1. 『わかる』から『できる』を体感する授業を実現する上で解決すべき課題

- ・令和4年度学力調査では、「ふりこのきまり」が目標値30%に対して8%とふりこの往復時間の求め方の理解が十分ではない。また、結果から考察を書き表すことが苦手である。電流のはたらきについても同様の結果となっている。

### 2. 課題改善に向けた取組状況

#### (1) 令和2年度授業改善推進プラン記載内容

- ・理科に出てくる言葉を絵や図を用いてわかりやすく記録し、確認することで定着を図る。
- ・全単元で実験の機会、観察の機会等の体験的な学習を増やす。

#### (2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業を実現するための工夫等

- ・すべての単元において、特に実験領域では、理科における学び方、問題解決型の学習習慣を身に付けさせ、結果から新たな疑問をもたせる終末にする。
- ・ICT機器を使つての学習補充を行う。

### 3. 課題の改善に向けた方策と検証方法

#### <方策>

- ①すべての単元において、特に実験領域では、理科における学び方、問題解決型の学習習慣を身に付けさせ、結果から新たな疑問をもたせる終末にする。
- ②ICT機器を使つての学習補充を行う。

#### <検証方法>

- ①単元ごとのノートを回収し、学習状況の確認を行う。
- ②単元学習後のテスト、レディネステストにおける平均点を分析する。平均点は85点を目標とする。また、テスト返却時に補足説明をする。

### 4. 検証結果(成果と課題)

#### <成果>

考察で新たな疑問をもてる児童は増えた。課題設定から実験内容を考えさせる過程を定着させることができた。

#### <課題>

考察で新たな疑問を持つことができず、実験結果と区別して記入することができない児童がいた。

### 5. 令和5年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項

- ・実験を安全に行うことができるが、予想と実験結果から考察できない児童のために、テンプレートを用意しておくことも手立てとなる。

### 6. 令和5年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿

- ・予想と実験結果から考察し、新たな疑問をもち意欲的に学習を進めていく児童。

## 〈授業改善推進プラン 令和4年度第6学年 音楽科〉

<p><b>1. 『『わかる』から『できる』を体感する授業』を実現する上で解決すべき課題</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>音楽科の学習では、児童の音楽活動と離れた個別の知識の習得や、技能の機械的な訓練に偏ってしまう傾向がある。音楽活動と関わらせながら知識や技能を習得することで「わかった」と実感したり、児童が主体的に学び、思考・判断・表現することで「できた」と感じたりすることができるようにする必要がある。</li> <li>個別の活動や一斉指導だけでは「わかった」「できた」という実感が少なく、学習意欲が向上しない傾向がある。</li> <li>響きのある歌声で、周りの歌声や伴奏を聴きながら声を合わせて歌うことや、音色や響きに気を付け、音を合わせて楽器を演奏することに対する意識をさらに高めていく必要がある。</li> </ul>	
<p><b>2. 課題改善に向けた取組状況</b></p> <p>(1) 令和2年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自然で無理のない声で歌うことや二部合唱の良さを実感した児童が増えた。</li> <li>合奏の中で音の重なりを良さを実感した児童が増えた。</li> </ul> <p>(2) 今年度実践している『『わかる』から『できる』を体感する授業』を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>音楽との一体感を味わったり、友達同士で関わり合ったりして意欲を高めるため、体を動かす活動やペアやグループでの活動を随時取り入れている。</li> <li>曲を聴いたり楽譜を見たりして曲の特徴についての理解を深めたり、様々な表現方法を試したりして、曲の特徴にふさわしい表現を考えて表現することができるようにしている。</li> <li>個別に表現の技能を見取る機会を適宜設け、学習内容の達成状況を把握し、その後の指導に生かしている。</li> </ul>	
<p><b>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</b></p> <p>＜方策＞</p> <p>①曲を聴いたり楽譜を見たりして感じたことや気付いたことを発言したりワークシートに記入したりし、曲の特徴について理解を深めたり、それにふさわしい表現をしたりすることができるようにする。</p> <p>②短いフレーズを一人ずつ歌ったり演奏したりし、技能の習得状況を把握して、必要に応じて個別指導を行うなどその後の指導に生かす。</p>	<p>＜検証方法＞</p> <p>①発言内容や記述内容を記録し、年間を通した児童一人一人の変容を記録して、曲の特徴についての理解やふさわしい表現の工夫について深めることができたか確かめる。</p> <p>②演奏聴取や映像・録音等での記録を行い、年間を通した児童一人一人の変容を記録して、必要な技能を習得することができたか確かめる。</p>
<p><b>4. 検証結果(成果と課題)</b></p> <p>＜成果＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>読譜指導と並行して楽譜を見て気付いたことを個人で考えたり共有したりする場面を設けたことで、それらを表現に生かす姿が見られた。</li> <li>歌唱や器楽表現を個別に見取る機会を設けることで、その後の個別指導に生かすことができ、表現活動への意欲が高まった。</li> </ul> <p>＜課題＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>習得した知識や技能を次の学習に生かすことが難しい場面がある。</li> </ul>	<p><b>5. 令和5年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>技能習得に時間がかかる傾向があるため、教材選択を工夫したり個別指導を重点的に行ったりする必要がある。</li> <li>発言やワークシート等で感じたことや気付いたことを表出する力に個人差があり、選択肢を与えたり個別の声掛けをしたりすることや、ICTを活用することなど手だてを工夫する必要がある。</li> </ul>
<p><b>6. 令和5年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿</b></p> <p>感じたことや気付いたことを生かし、思いや意図をもって表現したり、音楽のよさや面白さを味わいながら聴いたりする学習に主体的に取り組むことができる児童。</p>	

## 〈授業改善推進プラン 令和4年度第6学年 図画工作科〉

### 1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題

- ・ 図画工作科の特に技能面においては、『わかる』から『できる』という一方的な視点だけではなく、『できる』から『わかる』という学びのプロセスを体験することもある。『わかる』と『できる』が相互作用的に働いているという柔軟な視線を持ちながら、学習活動を計画したり、児童一人一人の取り組みに対応したりする。
- ・ 表しいものに合わせて材料や道具などの使い方の工夫する力をさらに高める。
- ・ 計画性や手順などを具多的に考えたり、アイデアを広げたりする力をさらに高める。

### 2. 課題改善に向けた取組状況

#### (1) 令和2年度授業改善推進プラン記載内容

- ・ 材料や道具を自分の表したいことに合わせて工夫して使おうとする姿が増えた。
- ・ 発想が広がるようなテーマや導入の工夫が必要である。

#### (2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等

- ・ 材料や道具などの使い方を掲示や ICT を活用して確認する。
- ・ 児童と実際にその材料や道具で工夫できるところを確認し、実際に試すことのできる学習場面を設定する。

### 3. 課題の改善に向けた方策と検証方法

#### <方策>

- ① 掲示や ICT を活用しての材料や道具の使い方や工夫の仕方の確認を行う。
- ② ワークシートを活用しての活動の手順を計画したり、アイデアを広げたりする。

#### <検証方法>

- ① 児童や作品観察。全児童が材料や道具を正しく扱え、どんな小さな工夫でも良いので自分なりの工夫をできるようにする。
- ② 児童や作品、ワークシートの観察。全児童がある程度の見通しを持ちながら、自分なりに計画やアイデアを実現できるようにする。

### 4. 検証結果(成果と課題)

#### <成果>

- ・ 基本的な材料や道具の扱い方を掲示や ICT を活用することにより正しく扱うことができていた。
- ・ ワークシートなどを活用することにより、アイデアを広げることができた。

#### <課題>

- ・ 道具や材料などを自分の表したものに合わせてさらに工夫する力を伸ばしたい。

### 5. 令和5年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項

- ・ さらなる基本的な材料や道具の扱い方の定着のために掲示や ICT などを活用して取り組んでいく。
- ・ ワークシートがあることにより制限されてしまう時もあるので、題材などによってアプローチの方法を工夫する。

### 6. 令和5年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿

計画性や手順などを具多的に考えたり、アイデアを広げたり、工夫したりできる児童。

**〈授業改善推進プラン 令和4年度第6学年 家庭科〉**

<p><b>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭科の学習は、すべて自分の生活に直結するものであるため、学習したことを生活の中で活用する力をさらに高める。</li> <li>・手縫いとミシン縫いの技能力をさらに高める。</li> <li>・調理や裁縫において、見通しをもち計画的にできるような力をさらに高める。</li> </ul>			
<p><b>2. 課題改善に向けた取組状況</b></p> <p>(1) 令和2年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・記載なし</li> </ul> <p>(2) 今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習した知識・技能について家庭実践レポートを単元ごとに行っている。</li> <li>・ICT活用して、繰り返し復習できるような環境づくりをしていく。</li> <li>・裁縫の単元では毎時間帯活動として、運針とミシン縫いを行わせている。</li> <li>・調理実習や布製品の製作の際には、必ず計画表を書かせている。</li> </ul>			
<p><b>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</b></p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>＜方策＞</p> <p>①一人一台のタブレットに、手縫い・ミシン縫いの動画を載せ、生徒が自分の分からないところを、自分のタイミングで視聴できるような環境づくりを行う。</p> <p>②ワークシートで計画表を作成し、進捗と振り返りを毎時間記入させ、「計画と実践」を可視化する。</p> </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>＜検証方法＞</p> <p>①作品の観察と技能テストを行う。全児童が、手縫い・ミシン縫いの技術を正しく身に付けることができるようにするとともに5年生よりも評価の基準を高め、技能力をさらに伸ばす。</p> <p>②児童のワークシートの確認。全児童が見通しをもちながら活動できるようにするとともに、「実践をまた次の計画生かす」という意識を持たせる。</p> </td> </tr> </table>		<p>＜方策＞</p> <p>①一人一台のタブレットに、手縫い・ミシン縫いの動画を載せ、生徒が自分の分からないところを、自分のタイミングで視聴できるような環境づくりを行う。</p> <p>②ワークシートで計画表を作成し、進捗と振り返りを毎時間記入させ、「計画と実践」を可視化する。</p>	<p>＜検証方法＞</p> <p>①作品の観察と技能テストを行う。全児童が、手縫い・ミシン縫いの技術を正しく身に付けることができるようにするとともに5年生よりも評価の基準を高め、技能力をさらに伸ばす。</p> <p>②児童のワークシートの確認。全児童が見通しをもちながら活動できるようにするとともに、「実践をまた次の計画生かす」という意識を持たせる。</p>
<p>＜方策＞</p> <p>①一人一台のタブレットに、手縫い・ミシン縫いの動画を載せ、生徒が自分の分からないところを、自分のタイミングで視聴できるような環境づくりを行う。</p> <p>②ワークシートで計画表を作成し、進捗と振り返りを毎時間記入させ、「計画と実践」を可視化する。</p>	<p>＜検証方法＞</p> <p>①作品の観察と技能テストを行う。全児童が、手縫い・ミシン縫いの技術を正しく身に付けることができるようにするとともに5年生よりも評価の基準を高め、技能力をさらに伸ばす。</p> <p>②児童のワークシートの確認。全児童が見通しをもちながら活動できるようにするとともに、「実践をまた次の計画生かす」という意識を持たせる。</p>		
<p><b>4. 検証結果(成果と課題)</b></p> <p>＜成果＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的な縫い方、ミシンの扱い方を、生徒全員が習得することができた。</li> </ul> <p>＜課題＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前時の授業からの反省を生かしながら、調理実習や布製品の製作に取り組むことができない児童がいた。</li> </ul>	<p><b>5. 令和5年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・縫い方やミシンの扱いは、定期的に行わないとやり方を忘れてしまうため、帯活動で行えるような工夫をする。</li> <li>・製作や実習の時はポートフォリオ型のワークシートを細かく作り、授業の振り返り時間を十分に充てるようにする。</li> </ul>		
<p><b>6. 令和5年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿</b></p> <p>計画性や手順などを考え、見通しをもって学習に取り組むことのできる児童。</p>			

**〈授業改善推進プラン 令和4年度第6学年 体育科〉**

<p><b>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>心と身体について、身近な内容であることから学習意欲は高い。学習意欲が低い児童の特徴として、保健の学習に抵抗を感じている。</li> <li>体育の学習で安全に配慮はできているが、自分の身体の動きや伝達について深く考えて動かしている児童は5～10%程度である。</li> </ul>			
<p><b>2. 課題改善に向けた取組状況</b></p> <p>(1) 令和2年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>みんなで楽しめるように、ゲームのルールを工夫する。</li> <li>チームワークを大切にできるよう、ゲーム前には、班での作戦の時間を十分に確保する。</li> </ul> <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>声を出して準備運動や整理運動をする。</li> <li>学習の見通しをもち、振り返り時間を確保する。</li> <li>ICT機器を使用して、自分と他者の身体の動きを比較できるようにする。</li> </ul>			
<p><b>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</b></p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>＜方策＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①声を出して準備運動や整理運動をする。</li> <li>②学習の見通しをもち、振り返り時間を確保する。</li> <li>③ICT機器を使用して、自分と他者の身体の動きを比較できるようにする。</li> </ul> </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>＜検証方法＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>②学習カードを活用し、毎時間振り返りを行う。</li> <li>③身体の動きのデータを活用して、変容を確認できるように、単元の最後で自ら確認できる時間を設定する。</li> </ul> </td> </tr> </table>		<p>＜方策＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①声を出して準備運動や整理運動をする。</li> <li>②学習の見通しをもち、振り返り時間を確保する。</li> <li>③ICT機器を使用して、自分と他者の身体の動きを比較できるようにする。</li> </ul>	<p>＜検証方法＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>②学習カードを活用し、毎時間振り返りを行う。</li> <li>③身体の動きのデータを活用して、変容を確認できるように、単元の最後で自ら確認できる時間を設定する。</li> </ul>
<p>＜方策＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①声を出して準備運動や整理運動をする。</li> <li>②学習の見通しをもち、振り返り時間を確保する。</li> <li>③ICT機器を使用して、自分と他者の身体の動きを比較できるようにする。</li> </ul>	<p>＜検証方法＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>②学習カードを活用し、毎時間振り返りを行う。</li> <li>③身体の動きのデータを活用して、変容を確認できるように、単元の最後で自ら確認できる時間を設定する。</li> </ul>		
<p><b>4. 検証結果(成果と課題)</b></p> <p>＜成果＞</p> <p>単元によって準備運動の内容を考える主体的な取り組みができていた。</p> <p>＜課題＞</p> <p>ICT 機器を使用して、自己の課題を把握することができなかった。(映像を用いて)</p>	<p><b>5. 令和5年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ICT機器を使って児童の活動を撮影し、友達を比較することはできたが、正しいフォームを見直すことができるようにしたい。</li> </ul>		
<p><b>6. 令和5年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿</b></p> <p>ICT機器を使って児童の活動を撮影し友達を比較し課題を把握できる児童。</p>			



〈授業改善推進プラン 令和4年度第6学年 外国語科〉

1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題

- ・児童によって学習意欲に差がある。意識の低い児童が25%ほどいる。
- ・パソコンの入力に問題はないが、大文字小文字の使い分けが十分でない。
- ・スピーキングとリスニングを苦手とする児童が20%ほどいる。

2. 課題改善に向けた取組状況

(1) 令和2年度授業改善推進プラン記載内容

- ・記載なし

(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等

- ・動作と取り入れ、話す聞くを連動させる。
- ・文章の大文字・小文字の使い方について、毎時間確認する。
- ・外国語活動以外の時間でも、英語を使った挨拶や指示をする。

3. 課題の改善に向けた方策と検証方法

＜方策＞

- ①動作と取り入れ、話す聞くを連動させる。
- ②文章の大文字・小文字の使い方について、毎時間確認する。
- ③外国語活動以外の時間でも、英語を使った挨拶や指示をする。

＜検証方法＞

- ①ワークシートや教科書を活用して意欲・関心、技能の向上を確認する。
- ②英会話を積極的にできるか、慣れ親しんでいるか確認する。

4. 検証結果(成果と課題)

＜成果＞

動きを取り入れることで声を出す事に抵抗を感じなくなってきた。

＜課題＞

発達段階もあるが、高学年になるにつれて、声を出さなくなる傾向にある。

5. 令和5年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項

- ・カリキュラムマネジメントを意識して他教科でも簡単な外国語を使用して授業を展開していくことを手立ての一つ。

6. 令和5年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿

外国語に興味をもち積極的に活用しようとする児童。

**〈授業改善推進プラン 令和4年度第6学年 道徳科〉**

<p><b>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実生活ではなく教科書の中の出来事と捉えてしまっており、実生活につながっていない児童が10%ほどいる。</li> </ul>	
<p><b>2. 課題改善に向けた取組状況</b></p> <p>(1) 令和2年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・記載なし</li> </ul> <p>(2) 今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・振り返りの際に、学習で学んだ内容をイラストに表すなどさせる。</li> <li>・実生活に置き換えた課題を話し合わせる時間を設ける。</li> </ul>	
<p><b>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</b></p> <p>＜方策＞</p> <p>①振り返りの際に、学習で学んだ内容をイラストに表すなどさせる。</p> <p>②実生活に置き換えた課題を話し合わせる時間を設ける。</p>	<p>＜検証方法＞</p> <p>①ワークシートの振り返りで確認する。</p> <p>②自分の意見をもつだけでなく、身近な事象に置き換えて問題を捉えているかをワークシート等で確認する。</p>
<p><b>4. 検証結果(成果と課題)</b></p> <p>＜成果＞</p> <p>人間関係や事象をイラストにして、視覚的に道徳的価値について考えることができた。</p> <p>＜課題＞</p> <p>発言力がある児童の意見を尊重してしまいがちである。</p>	<p><b>5. 令和5年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・道徳的価値に気付き、判断し実践態度を養っていくために、年間指導計画で指導内容を研究していく。</li> </ul>
<p><b>6. 令和5年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿</b></p> <p>自分の考えに対する根拠をもち、他者の意見にも耳を傾けることができる児童。</p>	

**〈授業改善推進プラン 令和4年度第6学年 総合的な学習の時間〉**

**1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題**

- ・小笠原諸島の世界遺産としての価値について考える上で、学年を系統立てた学習であったと理解している児童が50%ほどと高くない。

**2. 課題改善に向けた取組状況**

(1) 令和2年度授業改善推進プラン記載内容

- ・記載なし

(2) 今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等

- ・外部講師の講義から課題を見つけだし、インターネットや本などで調べ学習を展開していく。
- ・学習の振り返りや進捗状況を授業の終わりに全体で共有する。

**3. 課題の改善に向けた方策と検証方法**

＜方策＞

- ①外部講師の講義から課題を見つけだし、インターネットや本などで調べ学習を展開していく。
- ②学習の振り返りや進捗状況を授業の終わりに全体で共有する。

＜検証方法＞

- ①ワークシートと作成した発表資料の内容から把握する。
- ②学習全体の流れと現在の学習の関連性を確かめる。

**4. 検証結果(成果と課題)**

＜成果＞

小中連携を意識して、限度活動を設定することができた。プレゼンテーションでは、動きを入れた発表をしていた。

＜課題＞

スライド作成の際に、個人の能力に差があり、仕上がりの完成度にバラツキがあった。

**5. 令和5年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項**

- ・スライド作成のスキルを身に付けさせるために、情報教育の時間を確保していく。

**6. 令和5年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿**

プレゼンテーションでは、動きを入れた発表をし、発信力がある言語活動ができる児童。